

伊賀市の文化財 24

藤原千方伝説地

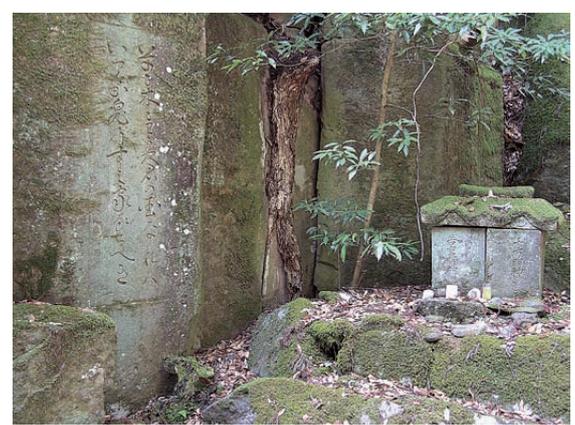
市内高尾・霧生から津市白山町・美杉町にかけて藤原千方にまつわる伝説地が点在しています。

『太平記』は平安時代頃の逸話として、千方が4匹の鬼を従えて朝廷に謀反した様子を記しています。千方が従えた4匹の鬼とは、大風を操る者（風鬼）、洪水を起すことの出来る者（水鬼）、矢を射かけても頑丈で通れない者（金鬼）、姿を消せる者（陰形鬼）の4匹で忍者を彷彿とさせるところがあります。千方の謀反は、朝廷からの命令を受けた紀朝雄により討伐され終息します。

高尾には千方が築いた城郭とされる千方窟（千方明神・千方屋敷）や、一斗の酒をつぐことのできる杯を洗ったという斗盞淵、討ち取った千方の首を洗ったという血首井戸などが伝わっています。千方窟には、城郭の正門



▲伝説分布図（『青山町史』より）



▲歌の刻まれた岩面と千方明神

跡とされる大門跡や見張り台跡、風穴などが残され、千方明神の中央にある岩面には紀朝雄が鬼を追い払うために詠んだとされる「草も木も我大国の君なればいづくか鬼の棲なるべき」の歌が刻まれています（昭和3年施工）。もちろん、千方の伝説は史実ではありません。実在した藤原千方に反乱を起こした事実はなく、紀朝雄については実在の人物であるのか確認されていません。しかし、『太平記』が千方の逸話の地として伊賀から伊勢にわたる地を選んだことは興味深いことです。近年の研究の蓄積によって、伊賀地域が古代・中世より交通の要衝であったことが判明してきています。その一方で、『太平記』の作者が記す幽陰な伊賀もまた当時のイメージとして存在したのでしょう。緑林と静寂に包まれた千方窟に立つと、千方伝説のイメージは更に膨らみます。

教育委員会文化財室 ☎ 22・9681



発行日 平成19年2月1日
 発行 伊賀市
 〒518-8501
 三重県伊賀市上野丸之内116番地
 編集 企画振興部広聴広報課
 ☎ 0595-22-9636
 FAX 0595-22-9617
 伊賀市ホームページ：
<http://www.city.iga.lg.jp/>

ひとが輝く 地域が輝く ~住み良さが実感できる自立と共生のまち~ 伊賀市 IGA CITY

七草探して七草粥を食べよう！

1月4日、さくら保育園の年中・年長の園児45人が春の七草を探りにいきました。七草とは、芹・薺・御形・繁縷・仏座・松・蘿蔔のことで、正月7日に七草をお粥に入れ炊いて食べることを七草粥といい、邪気を払い万病を除き、野菜が乏しい冬場に不足しがちな栄養素を補うという効果もあります。残念ながら七草は見つかりませんでしたが、それでも園児たちは、ヨモギなどの野草を楽しそうに集めていました。



1月9日には七草粥を食べました。園児たちはみんな「おいしい」とお粥をお代わりしていました。（今月の表紙）